

特集

翼状片手術：私はどうしている

序 論

雑賀司珠也*

今月は翼状片の手術を特集させていただきました。4名のエキスパートに得意の術式を解説していただきました。悪性腫瘍ではありませんが、徐々に増殖し、乱視惹起も含めた視機能障害だけでなく、整容上も問題となる疾患です。白内障手術での眼内レンズ度数算定にも影響します。

病態の本態がいまだ完全には解明されていないなかでの手術ということで、どなたもご苦労されています。小生にも自身の術式があります。術式の変遷・バリエーションは古くから議論されてきていますが、今一度、皆様と一緒に、この課題をレビューする機会を得て、幸せに思います。本特集で各執筆者が挙げておられる参考文献もぜひ、読みたいところです。小生が個人的に注目している参考文献を以下に3編挙げさせていただきます。

- ・ Chui J, Coroneo MT, Tat LT et al : Ophthalmic pterygium : a stem cell disorder with premalignant features. Am J Pathol 178 : 817-27, 2011
- ・ Tong L, Lan W, Sim HS et al : Conjunctivochalasis is the precursor to pterygium. Med Hypotheses 81 : 927-30, 2013
- ・ Tang Y, Qian D, Wei L et al : Influences of the three-dimensional parameters of pterygium on corneal astigmatism and the intraocular lens power calculation. Sci Rep 10 : 5017(1-7), 2020

ご自身で執刀なさる先生だけでなく、手術を担当される先生に患者さんをご紹介になる先生も、紹介先の先生の術式にご興味あるところと思います。ぜひ、本特集のご一読をお勧めいたします。

*Shizuya SAIKA 和歌山県立医科大学眼科学講座